

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	岡山県立岡山西支援学校	指導者名	佐藤 加那子
実践場面 (教科名)	日常生活の指導 (自立 2-(1) (2)、6-(4))	単元・題材名	VOCA を用いて、朝の会・帰りの会で司会進行をする。
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「ぼくもやりたい!」という気持ちを、端末を活用することで叶え、達成感を感じられるようにすること。 ・友達や教師の活動に合わせて画面上のカードを選択することで、友達や教師の動きに注目したり待ったりする態度を養うこと。 ・活動への興味と集中を継続できるようにすること。 		
対象児童生徒の実態	知的部門 小学部 2年		
	<ul style="list-style-type: none"> ・発語はない。絵カードの意味を理解しており、カードを通して教師とコミュニケーションをとることができる。 ・人と関わるのが好きで、先生のしていることをやりたがるが多い。 ・友達の動きややり方が気になるあまり、友達の活動や仕事を横取りしたり強引にやらせようとしたりすることがある。 		
活用の概要			
<p>【使用アプリ】 しゃべるんです。</p> 			
<p>【概要】</p> <p>内容：アプリ「しゃべるんです。」を活用した朝の会等の進行</p> <p>方法：・教師が隣に座り、端末の操作を補助しながら進めている。</p> <p>①アプリのボードの中から会の項目（「あいさつ」「今日の予定」等）をタップして選択する。</p> <p>②表示されたコミュニケーションカードの中から該当のイラストや顔写真をタップして選択すると、そのカードに設定された音声流れる。</p>			
<p>成果や活用のポイント</p> <p>・課題、改善点等</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の仕事を横取りしたり友達を強引に動かそうとしたりすることが無くなった。また、それをきっかけとしたトラブルが無くなったことで、朝の会や帰りの会中の癩癢や自傷・他害が減った。 ・これまでジェスチャーやカードで伝えていたことが、音声（言葉）として流れることで、司会の仕事への興味と責任感が生まれた。司会の仕事を励みに、日常生活のタスク（片付けや着替え等）への取り組みがスムーズになった。 <p>【活用のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にカードを追加することで、飽きることなくまた仕事に集中して取り組むことができるようにした。 ・実際に使用していたカードや視覚支援の写真をアプリ内のコミュニケーションボードのカードとして使ったことで、児童が見てすぐに使えるようにした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボード（フォルダ）内のカード数に制限がある。（20枚まで） ・ボードが一覧となっており、フォルダ分けすることができないため、他の教科で使うボードも一覧中に混在した状態になる。 ・興味が強すぎて、その場面に関係のないカードをタップして音声を流すなど、遊びになることがある。 		